

日本学術振興会、秋篠宮皇嗣同妃両殿下ご臨席のもと

国際生物学賞授賞式、伊・パルマ大名誉教授を表彰

日本学術振興会は12月17日、日本学士院会館(東京都台東区)において、「第41回国際生物学賞授賞式」を挙行了た。

同賞は、昭和天皇のご在位60年と長年にわたる生物学研究を記念して創設されたもの。生物学研究において世界的に優れた業績を挙げ、学術の進歩に貢献した研究者を毎年1名表彰している。式典には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を賜り、高市早苗内閣総理大臣



秋篠宮皇嗣同妃両殿下が見守られる中、賞状を受け取るリッツォラッティ教授



(宇野善昌内閣総理大臣補佐官が代読)、松本平文部科学大臣から祝辞が述べられた。今回は神経生物学分野から受賞者を選出し、イタリア・パルマ大学のジャコモ・リッツォラッティ名誉教授を表彰した。リッツォラッティ教授は、高等生物が他の行動を理解するための基盤となる「ミラーニューロン」を発見。「ミラーニューロン」とは、自分が行動した時と他者が同じ行動をするのを見た時の両方に活性化する神経細胞で、最初にサルで、その後ヒトでも発見した。この発見により、行動を含むさまざまなレベルの他者理解の神経基盤が解明され、社会神経科学領域の発展に大きく貢献。神経生物学の発展を支えるものとして高く評価された。

式典でリッツォラッティ教授は自身の研究について説明し、「今回の受賞は、研究をさらに深め、神経系の新たな臨床応用を探る励みになる」と感謝を述べた。

祝辞を述べる松本文科大臣

両方に活性化する神経細胞で、最初にサルで、その後ヒトでも発見した。この発見により、行動を含むさまざまなレベルの他者理解の神経基盤が解明され、社会神経科学領域の発展に大きく貢献。神経生物学の発展を支えるものとして高く評価された。